職員用緊急避難マニュアル

《以下の場合のみ開封すること》

・校長および代理よりの指示があった時
・Ａ－１警報の発令時
・外部よりの連絡が途絶し十日以上が経過した場合

文 15-10286 号　年１０月１日　改訂

《機密保持条項》

本文書の開封を以って、第 16432 号機密保持契約に同意したものと見なす。(罰則などについては同契約書本文を参照)。

許可無き開封および、資格なき第三者への開示もしくは漏洩の際は、速やかに　　　　　監査部へ連絡すること。

本文書の閲覧者は、本文書より知り得た情報(書面、口頭、目視などの形態に関わりなく)については、厳に機密を保持するものとする。

公的機関の調査ならびに各種報道機関からの取材についても、事情の如何に関わらず一切本文書の存在並びに内容について触れないものとする。

１．　はじめに

本文書の開封においては、Ａ－１警報もしくは、それに準ずる事態がそうていされている（例外の場合は、機密保持条項の上、直ちに　　　　監査部へ連絡すること）

本文書では、そうした緊急事態における対応方法を検討する。

特異な状況においては、状況にふさわしい判断、行動が必要となる。

日常世界通常保証されている各種の自由や安全性は、この種の事態においては滅多に得られない贅沢であり、一般的な日常における常識は障害となることを心せよ。

状況に適応し、適切な行動を取ることに、多くの人名がかかっている。

２．　初期対応

最初に当局への連絡を行い、処理班を待つこと。しかしながら、処理班到着までには時間がかかり、また状況によっては到着が難しい場合もありうる。

重要なのは確保と隔離である。すみやかに防護手段を執った後、感染者のみならず、その場にいた防護手段を持たない人間を全員、確保せよ。移動を許してはならない。しかるのちに、その場と、その周辺を完全に隔離すること。

確保と隔離の手段は、臨機応変に対応せよ。その場にいる権威者（警官、学校における教師など）による説得が有効の場合もあるだろう。説得に応じない場合は、兵器などの強制力の使用も視野に入れる一方、パニックによる混乱の危機も生じる。

武力衝突の犠牲は看過すべきである。隔離に失敗した場合は、最低数十名の人命が失われる可能性が高い。

３．　予期せぬ事態への対応

感染対策は、初期の封じ込めが重要であるが、それに失敗し、感染が爆発的に増加した、いわゆるパンデミック状態が引き起こされた場合を想定する。上記封じ込めに失敗した場合、あるいは、本文書開封時点でそうなっている事態などである。

この場合でも重要なのは、確保と隔離である。ただし確保すべきは、人材と資材、隔離すべきは、非感染者である。

対応できる資源、人員ともに限定されることが想定される。武力衝突も視野に入れて、資材を確保すること。
人材の確保においては、厳密な選別と隔離を基本方針とすること。これにおいても武力衝突を前提とすること。

４．　最後に

古今東西、様々な道徳があるが、あらゆる道徳に共通することは、人命こそが最も優先すべきものだということである。であるが故に、多数の人命が危機にある時は、少数の人命の損耗をためらってはならない。

寛容といたわりの精神は、本文書開封時点においては、美徳ではない。

覚悟せよ。

あなたの双肩には、数万から数百万の人命がかかっている。

○感染症の種類と特定

　兵器において重要な要件とは必要な損害を必要な範囲に発生させることであり、生物兵器も、この例に漏れない。
　戦場で広範囲に使用する時は、発症による人的資源の束縛が主な目的である。この場合、看護が必要な病者が増えることが望ましい。つまり感染率が高い文、致死率は低く制御されるべきである。
　逆に、小規模の対象を排除する際に使用する場合は、致死率を高め、被害を拡散しないように感染率が低いことが望ましい。

　これらの感染者の種類の違いに着目することで､非常事態においても冷静的な対応をすることができるだろう。

２．例 外

　感染率が高いものは致死率が低く、致死率が低いものは感染率が高い。
　これらは完成された製品に望まれる仕様であり、研究途中の製品が漏洩した場合は、この限りではない。また広範囲に増殖した際、変異を起こし、当初と違う形質を獲得する可能性もある。
　それらを踏まえて、慎重な対象が必要となる。

３．系 列

　以下は、　年　月現在の研究対象系列である。おおまかな分類であり、時期によって変化する。

α系列：
　広範囲感染型。　菌をベースとし、感染力および感染経路を強化したもの。主な症状は、発熱、発汗、吐き気等。
　潜伏期は３～６日。感染経路は接触感染、飛沫感染、血液感染等。
　致死率は低いが適切な治療が受けられない場合は、後遺症および衰弱死の可能性あり。
　潜伏期に考慮し、１０日程度の隔離機関を前提とすべし。
　感染に注意した上で（できれば気密服の着用が望ましい）αマークの救急ボックスを使用すべし。

β系列：
　致死感染型。　ウイルスをベースとし、既存のワクチンへの抵抗力を増したもの。主な症状は、嘔吐、下痢、吐血、出血。感染経路は、血液感染。
　潜伏期は２時間程度。致死率はほぼ１００％
　β系列の発症者には近づくべきではない。血液中のウイルスは、死後、７時間程度で消滅する。

《校舎全図　１階(左) 地下１階(右下) 地下２階(右下)》

《校舎全図　２階》

☎（公衆電話）

緊急連絡先関連は

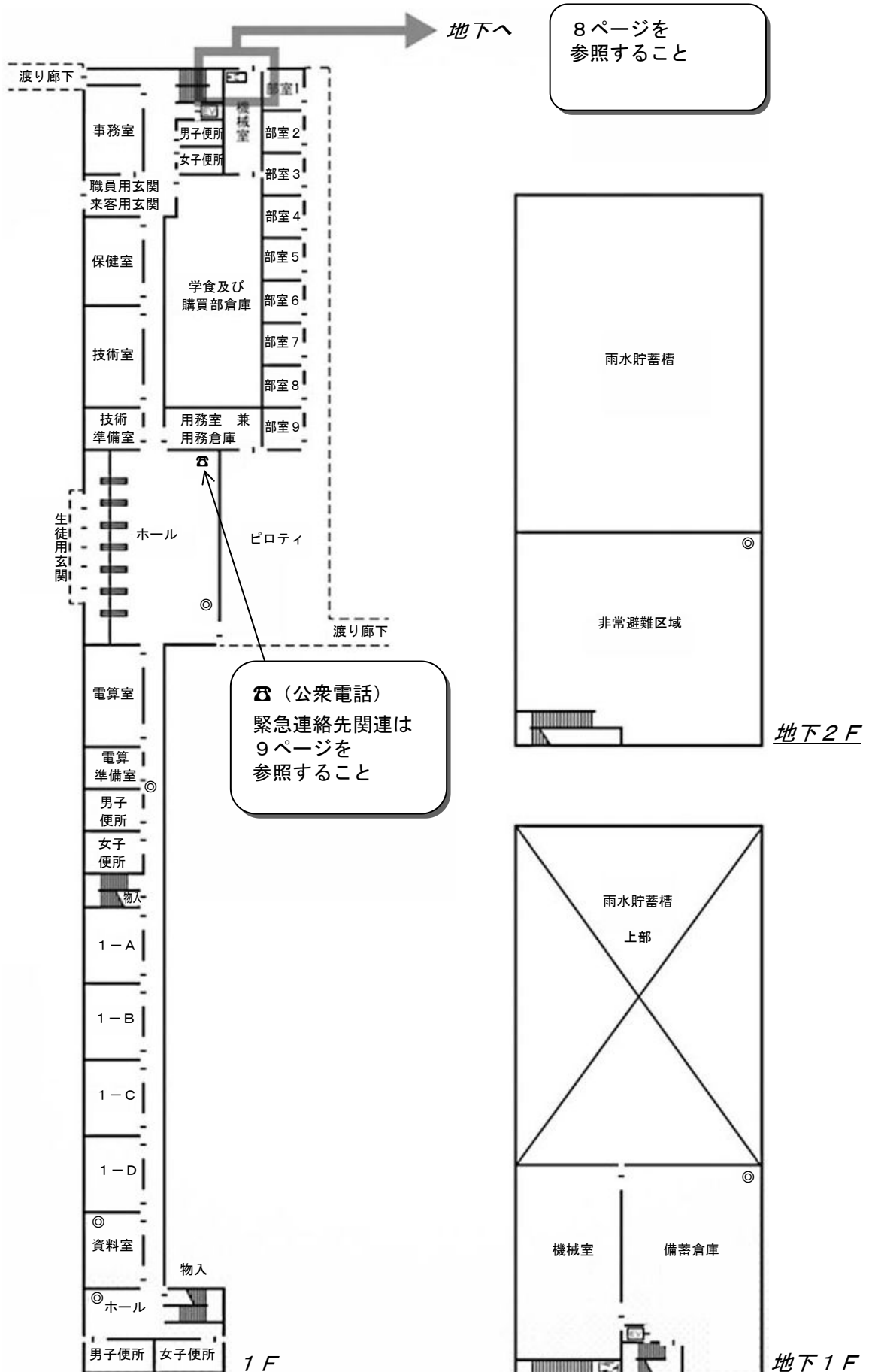
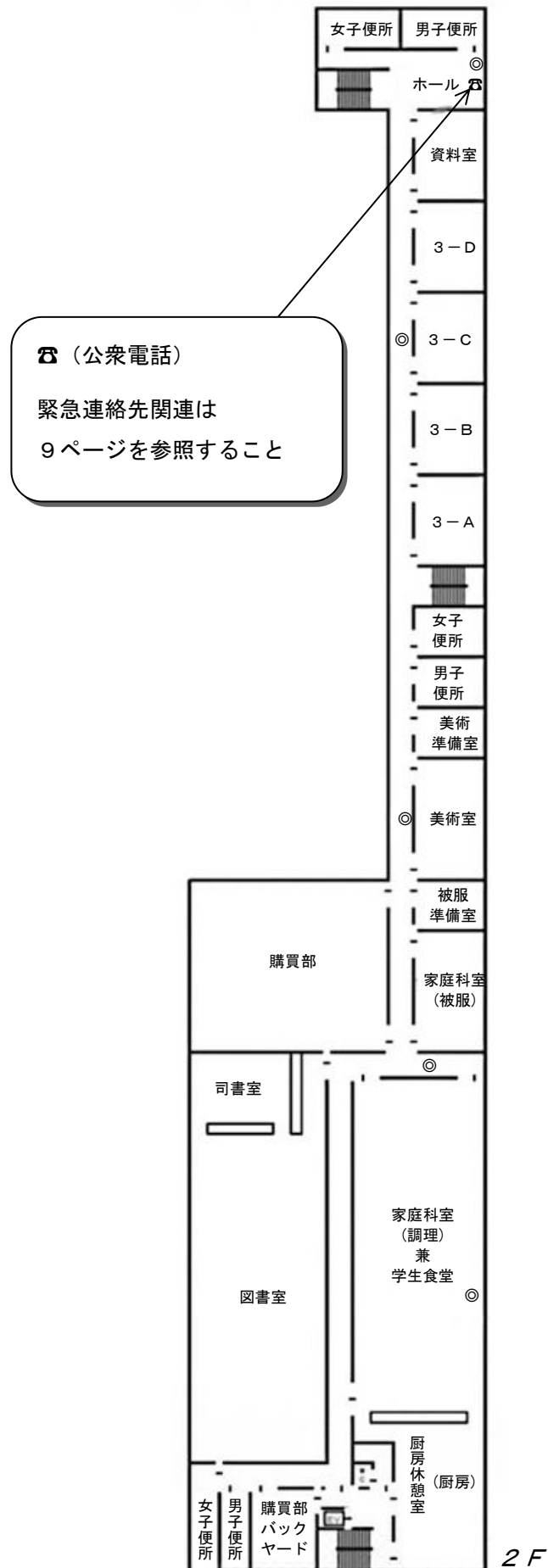
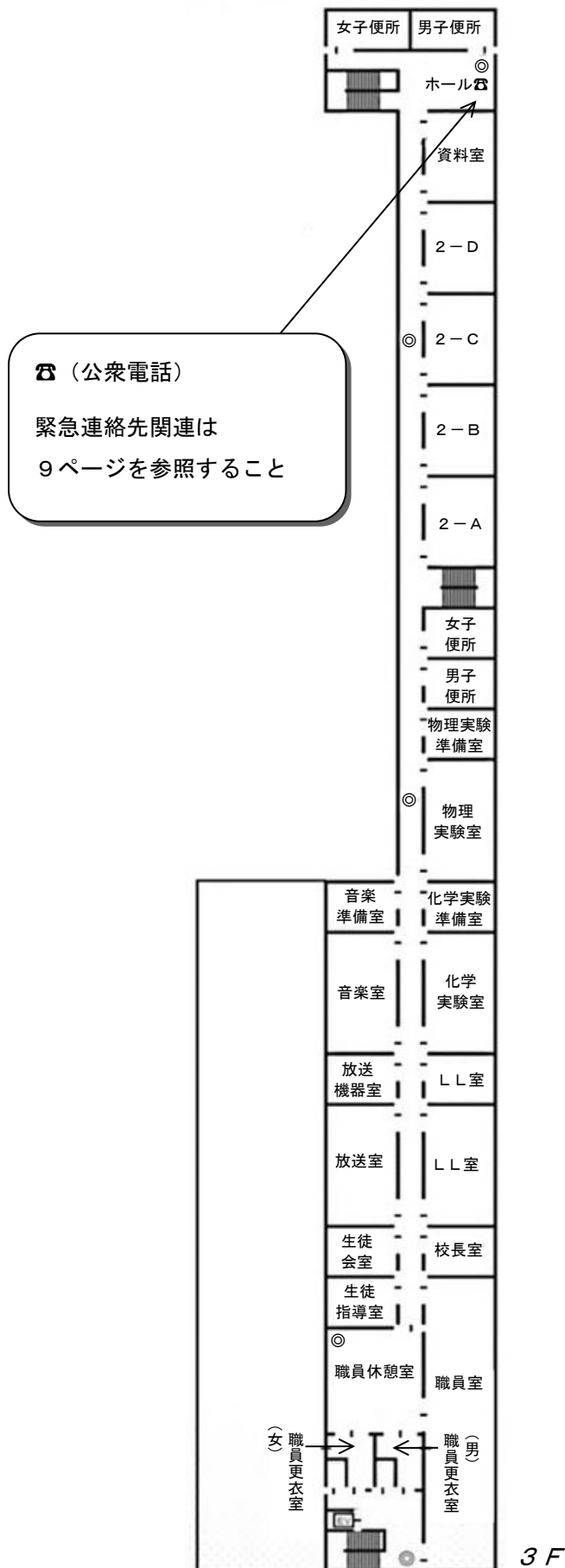
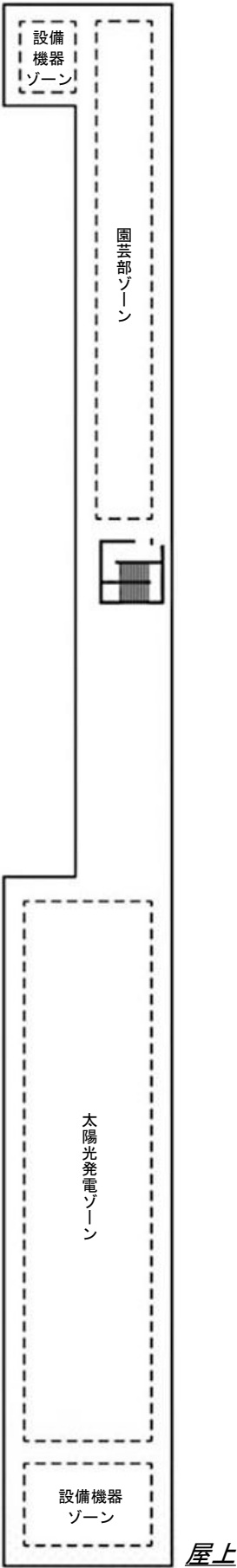
９ページを参照すること

◎消火栓設置位置

《校舎全図　３階》

◎消火栓設置位置

《校舎全図　屋上》

◎消火栓設置位置

〇本校の防護施設について

１．地階

地下一、二階を本校における非常避難区域とする。緊急の際は、ここを拠点とすること。

２．物資

１５人以内での生活を想定。食料一ヶ月分を備蓄。
太陽電池による発電および、蒸留機構施設により、水および電力は無期限の使用が可能。

３．緊急物資

包帯、解熱剤、抗生物質の他、感染症別救急セットを保管。１セットにつき３名文の薬剤を保管。

４．入り口

一階の倉庫隅のシャッターより入場可。
電子ロックの暗証番号は、責任者の保持するマスターコード、もしくは本校の代表電話番号（市外局番除く８桁）を逆から入力すること。内部より再設定可能。ただしマスターコードは、その他の設定に優先される。
停電時は、シャッター脇のパネル内の鍵を外すことで、手動での上げ下げが可能（キーは責任者が保持する）

○緊急連絡先

ランダル・コーポレーション 巡ヶ丘支社
電話番号：　　―　　―　　（直通）
e-mail：emergency@randall.　　.co.jp

ランダル・コーポレーション 本社
電話番号：　　―　　―　　（直通）
e-mail：emergency.　　.com

○拠点一覧

私立巡ヶ丘学院高校

住　　所：
電話番号：　　―　　―

聖イシドロス大学

住　　所：
電話番号：　　―　　―

駐屯地

住　　所：
電話番号：　　―　　―

航空基地

住　　所：
電話番号：　　―　　―

中央病院

住　　所：
電話番号：　　―　　―